

**Citation:** Denton AS, Maher J. Interventions for the physical aspects of sexual dysfunction in women following pelvic radiotherapy. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2003, Issue 1. Art. No.: CD003750. DOI: 10.1002/14651858.CD003750.

**CRG名:** Gynaecological Cancer

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 6 September 2002

**Clib issue No.;** N/U: 2009 issue 2, -

**背景:** 骨盤の放射線療法(RT)後に、多因子に由来する性機能に関連した問題が特定の割合の女性に生じる。身体的要因は会陰や膣の歪曲に関係しており、このような歪曲は手術および/または放射線療法の結果として起こることがあり、性行為が損なわれ、その結果、かなりの心的な苦痛が生じる。

**目的:** 骨盤の放射線療法により生じる性機能障害の身体的要因に対処し、急性または晩期合併症の予防または治療としての治療選択肢についてのエビデンスを評価することを目的とする。

**検索戦略:** 使用した概念には、放射線治療および密封小線源治療の同意語ならびに女性性機能障害の一連の身体的要因の同意語が含まれた。ランダム化された試験。Cochrane Controlled Trials Register(CENTRAL) 2002年第1号、MEDLINE 1966年~2002年、EMBASE1980年~2002年、CANCERCD 1980年~2002年、Science Citation Index 1991年~2002年、CINAHL 1982年~2002年、ならびに二次的な文献情報源も検索した。また、関連性のある教科書をハンドサーチし、本分野の専門家へも問い合わせた

**選択基準:** 骨盤の放射線療法後に発現した女性の性機能障害の身体的要因を緩和する治療に関して、治療的試験を記述しているすべての研究を検討した。次に2名のレビューアが独自に各研究の質を評価し、統計的分析に含めることが適切かどうかを判断した。

**データ収集と分析:** 32件の参考文献が検索の選択基準に適合したが、このうち4件のみが統計的分析に適切であった

**主な結果:** 利益についての最も強固なエビデンスは、放射線による膣の急性変化に対する治療について記述していた局所エストロゲンおよびベンジダミン関係のグレードICのデータである。膣狭窄を予防するための膣ダイレーターの使用はグレードIICのエビデンスにより裏付けられている。高圧酸素療法および外科的再建の有用性は、症例集積の形でかなり弱いグレードIIICのエビデンスにより裏付けられている。

**レビューアの結論:** これらの所見は、放射線誘発性合併症の診療を目的とした関連介入に関する発表済みデータの内容を反映している。グレードICのエビデンスはあるものの、これらの研究は最近のものではなく、本文において割り付けの隠蔽化が不明であり、全体的に反応の評価レベルが一定ではなかった。このことから、調査研究プロセスを明確にし、最終結果を裏付けるようにデザインが改善された、さらに多くの研究を実施する必要性が強調されている。

(監訳 吉田 雅博)

翻訳公開日: 09年9月15日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。